

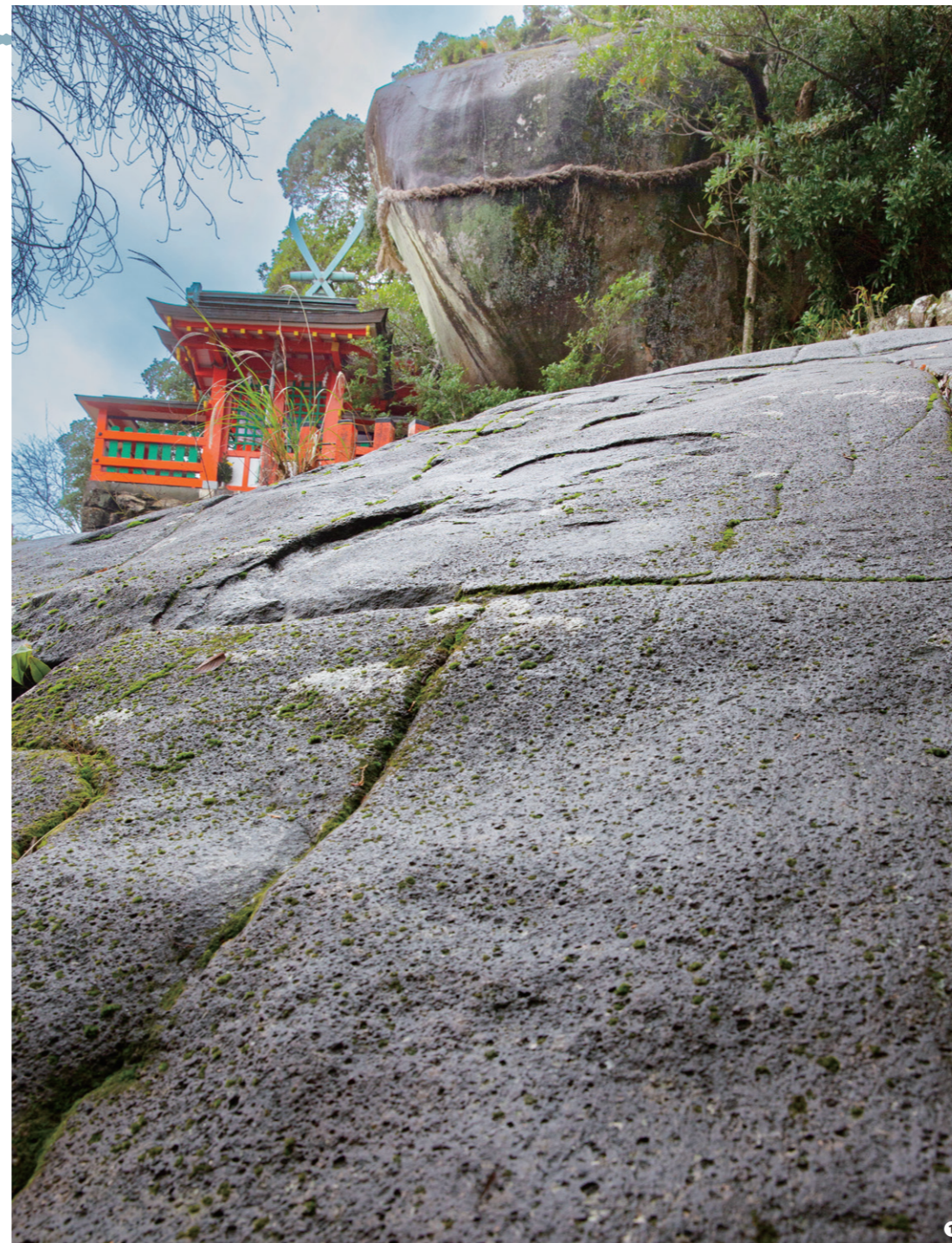
天に最も近い巨岩に 熊野の神々が降臨する

熊野速玉大社の摂社である神倉神社に詣るには、数百段にもなる急勾配の石段を登らなければならない。登段後、目の前に現れるのは、天を支えるかのような存在感を放つ巨岩。ゴトビキ岩とよばれる神倉神社の御神体である。「ゴトビキ岩は熊野の神々が地上に降り立った場所で、その周囲からは弥生時代の銅鐸も出土し、古くから信仰の場であったことがわかります。ゴトビキ岩はマグマが冷えて固まってできた流紋岩。南紀熊野ジオパーク

クの見どころであるジオサイトの多くは、約1400万年前に起きた火山活動やその時生じた巨大な熊野カルデラに沿って点在しています」と語るのは、地元で語り部を15年以上続けるジオパークガイドの神保圭志さん。ジオパークとは、地球や大地を意味するGeoと公園を意味するパークを組み合わせた造語で、熊野一帯は南紀熊野ジオパークのエリアでもある。そして古座川には「岩かじり」という魔物の話が残されている。岩が好物の

その魔物は、古座川の虫喰岩や牡丹岩を食い荒らしたが、犬に吠えられ一枚岩はかじることができなかったという。また串本の橋杭岩には、弘法大師空海が一晚で大島まで橋を架けようとしたが断念した伝説などが残る。実はこれらの巨岩はすべて約1400万前に生じた火成岩で、古座川弧状岩脈の一部である。先人たちが熊野カルデラの成り立ちを知っているはずもないが、それらの岩々に共通した畏怖の念を感じたに違いない。深い森の中、清らかな水が樹々の間を流れ、その流れは川となり海に注がれ、豊かな漁場を作り人々は生活を営む。火山活動により生じた景観は幻想的で、それ自身に神や伝説が宿る。熊野は、自然と人と信仰が悠久の時間を共有しているジオサイトの宝庫である。

①写真上部左の社が熊野速玉大社の摂社である神倉神社。その右にあるのがゴトビキ岩で、手前が袈裟岩。②しめ縄が付けられているゴトビキ岩。



「ゴトビキ岩には、神武天皇東征にまつわる伝説と、熊野権現の降臨地という、複数の伝説があります。ジオは研究が進むことで学説が変わることもあり、最新の学説を学ぶことが重要です」と語る神保さん。熊野古道の語り部なども行うベテランガイド。

南紀熊野ジオパークとは、付加体と前弧海盆堆積体、火成岩体という3種類の大地と、それらが作る独特の景観や多種多様な動植物、熊野信仰や筏流しなどの自然や文化を体感できるエリアである。南紀熊野ジオパークセンターは、南紀熊野ジオパークの情報発信や調査研究の拠点となる施設で、南紀熊野の大地の成り立ちや自然の不思議さを楽しみながら学ぶことができ、ジオガイドなどが案内も行う。



南紀熊野ジオパークセンター

住所／東牟婁郡串本町潮岬2838-3 電話／0735-67-7100

袈裟岩に見られる方状節理

節理とは火成岩に見られるもので、規則性のある割れ目のこと。方状節理とは縦や横方向に規則的に生じた割れ目。他にも柱状節理や板状節理という割れ目もある。



神秘的なジオサイト

③志原海岸にある鳥毛洞窟。波の侵食によってできた海食洞。干潮時にしか近づけないが、SNSなどでも人気の観光スポット。④中学校の教科書にも掲載されたフェニックス褶曲。地層が完全に固まる前に陸側に押し付けられ折りたたまれたもの。⑤約850mにわたり橋脚のような岩塔が直線状に並ぶ橋杭岩。地下から上昇したマグマが冷えて固まり、波の侵食により硬い部分だけが残ったもの。

紀伊半島

熊野本宮大社

熊野速玉大社

ゴトビキ岩

那智の滝

熊野那智大社

熊野カルデラ

古座川弧状岩脈

古座川の一枚岩

高池の虫喰岩

橋杭岩

志原海岸(鳥毛洞窟)

フェニックス褶曲